

ろう学校跡に移転。規模、施設とも東北一を誇る点字図書館。



1 線

県政第

読む 喜びを 心の糧に

岩手県点字図書館

いつでも、どんな図書でも利用してもらえるために一。

ここ県点字図書館（沼田館長ほか5人）は、少数のスタッフで目の不自由な方々の教養と福祉の増進を図るための、点字図書・声の図書の貸し付けを行っている。

業務は、点字図書・声の図書づくり、図書の閲覧・貸し出し、点訳・朗読奉仕員の育成指導、中途失明者の相談や点字指導が主なもの。

この図書館の特徴は、図書館自らも図書をつくっていること。

点訳奉仕員（56人）によって作成された点訳書を校正、製本して利用者に提供。目の不自由な方すべてが点字図書を触読できるわけではないため、耳からの読書を目的として、朗読奉仕員（78人）の協力でテープが

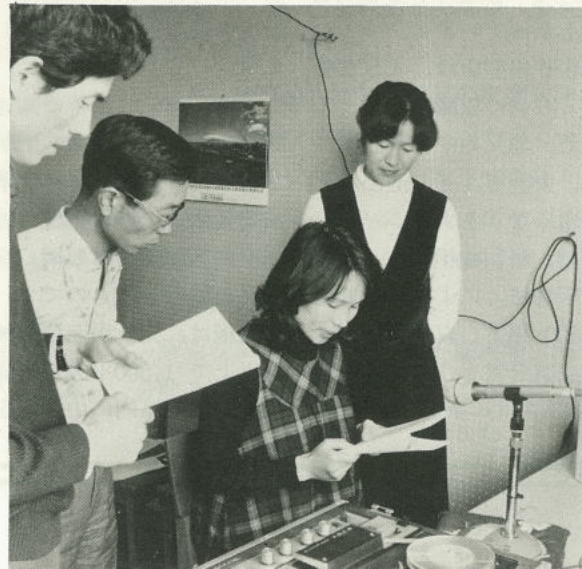
られる。そのテープや他館所属の声のテープを借りてプリント複製。利用者に提供している。蔵書は現在、点訳書9,800冊、



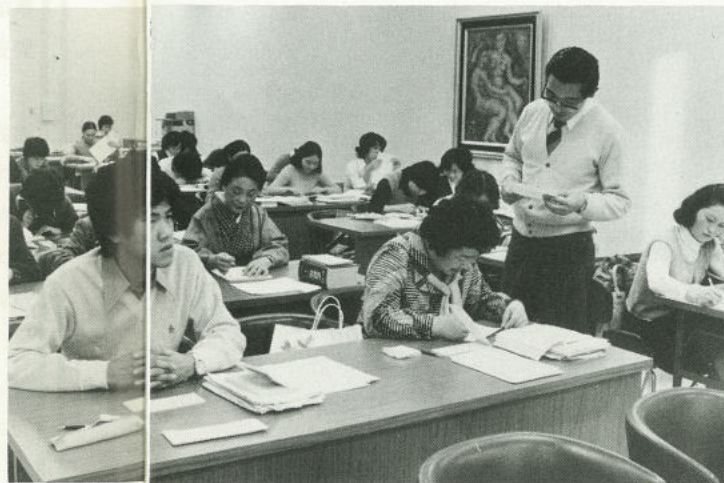
▲市販されていない指先で読む図書。文学書「竜馬が行く」など4,420冊、専門書を含め9,900冊の点訳蔵書。

声の図書7,900冊。利用者の家庭まで図書を届ける郵送による貸し出しも行う。県内には約6,000人の目の不自由な方がいて、利用登録制をとっている。

目の不自由な人たち全員の心の糧となり、読書の喜びをもらおうと、点字図書館は、図書づくりに余念がない。



声の図書作り。発声練習など基礎訓練から育成指導が行われる。年間5人位の朗読奉仕員が誕生。



▲点訳奉仕員養成講習会。盲人福祉に理解と熱意ある方々に点訳指導。



▲手軽に読んだり聞いたり、2週間を限度に利用者には郵送貸し出しも行う。